

重点戦略1 ジオパークの豊かな自然と歴史の中に暮らす魅力を高めて、定住化を促進する

資料No.8

① 重点戦略に係る数値目標(KPI)

No	重点戦略に係る数値目標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (目標値)	達成度
1	転入者人口(人)	目標値	—	427	431	435	439	443	447	451	未達成
		実績値	423	433	420	411	401	437	395		
2	うち市の支援を受けて転入した人の数(人) ※H27～R元累計	目標値	—	3	4	12	16	20	26	32	達成
		実績値	3	3	10	61	113	169	197		

② 重点施策

No	施策名	担当課	内容・実績(令和2年度)	課題と対応策(令和3年度以降)
1	ふるさと勝山への移住・定住促進に関する情報発信の強化	商工観光・ふるさと創生課	<ul style="list-style-type: none"> ●勝山市成人式等の機会をとらえ、U・Iターン推進のチラシやそれに係る補助制度のPRに取り組んだ。 ●勝山高校卒業生の大学等進学後の情報発信に向けた卒業生の情報収集に取り組んだ。 ●移住推進サイトSMOUTを活用した勝山体験プログラムの活用に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の影響から、移住・定住の状況は確実に変化している。令和2年度に引き続き、テレワークやワーケーションなど関係人口の増大とそこからの移住・定住への発展という新たな展開を意識しつつ、住環境の充実や働く環境の整備など総合的な対策に取り組んでいく。また、地域おこし協力隊などIターン者の意見を踏まえ、連携しながら「住む・働く」をパッケージ化した新しい提案を検討するとともに、情報発信に取り組む。
2	U・Iターン者の住まいや仕事探しに向けた支援の強化	商工観光・ふるさと創生課	<ul style="list-style-type: none"> ●ふるさと勝山移住定住促進事業として、これまでの補助制度を見直し、U・Iターン者を一律に支援するU・Iターン奨励金とU・Iターン就職者に加算して支援するU・Iターン就職奨励金を創設した。 【R2実績】 ・家賃助成:23件 2,828千円 ・市外通勤:2件 30千円 ・U・Iターン奨励金:22件 800千円 ・U・Iターン就職奨励金:5件 540千円 ・移住支援金:1件 1,000千円 ●地方創生推進交付金を活用し、市内企業の求人を支援するための情報発信ツール(企業紹介冊子「いんとろ」やそれにリンクしたHP)を作成したほか、市内就職者増加に向けた市内企業への支援を実施した。(長期のインターンシップ実施やWEBでの市内企業合同説明会の開催等) 	<ul style="list-style-type: none"> ●補助制度のうち何が特に求められているかについては、市内企業の意見も随時収集し、新たな生活スタイルも注視しながら、柔軟にブラッシュアップを図る。 ●市内企業の支援については、事業への参加企業の増加にあわせ、市内就業者の拡大のみならず、企業同士の横のつながりも作り、新採用者のフォローや離職防止につなげるべく、具体的な対策を企業側と相談・連携しながら講じていく。
3	勝山暮らし・田舎暮らし体験の充実	商工観光・ふるさと創生課 農林政策課	<ul style="list-style-type: none"> ●お試し移住体験施設は、全国的に同様のものが増加しているが、現在も一定の問合せがあるものの、令和2年度については新型コロナウイルス感染症の影響により閉鎖した。 ●1日～数日間、農家に宿泊しながら農作業等の田舎暮らしを経験する体験メニューを実施した。 【R2実績】 延べ19人 【R1実績】 延べ137人 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域おこし協力隊やゲストハウス経営者など「ソフト」からの意見も十分に踏まえ、ハード・ソフト両面での支援策を検討し、将来の定住人口につなげていけるよう関係人口の創出に取り組む。 ●新型コロナウイルス感染症の蔓延により田舎暮らし体験者が激減した。地域おこし協力隊と協力し、コロナ後の社会変化に対応した魅力ある体験メニューを検討していく。

No	施策名	担当課	内容・実績(令和2年度)	課題と対応策(令和3年度以降)
4	U・Iターンの促進に向けたインセンティブの強化	商工観光・ふるさと創生課	<ul style="list-style-type: none"> ●U・Iターンの促進による地方創生の実現に向け、補助金制度の見直しを図り、支援額は減少させたが、より多くのUターン者を支援する形にした。(上記2のとおり) 【実績】R1:56名 R2:28名 ●U・Iターンを推進するため、「地域おこし協力隊」の採用条件を大幅な見直し、3名増員した。 【実績】R1:4名 R2:3名(増員) 	<ul style="list-style-type: none"> ●補助制度の活用者の声を聞きながら現制度の分析を行いつつ、新型コロナウイルス感染症の影響による社会情勢の変化に対応できるよう制度のブラッシュアップに取り組む。
5	地場産業への理解を通じた定住促進	商工観光・ふるさと創生課	<ul style="list-style-type: none"> ●若年層に市内企業の魅力を分かりやすく伝える企業紹介冊子「いんとろ」を活用し、ポータルサイトへの掲載など内容充実を図った。 ●広く県外の方々に少しでも市内企業を知ってもらうとともに、企業側も能動的・専門的な人材との交流により新たな発見をしてもらうべく、長期の学生インターンシップや専門人材を招聘したダブルワーク事業を行った。 ●市内企業の採用力を向上させるため、専門家を招いて企業塾を開催したことに加え、WEBでの市内企業合同説明会の開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●内容の充実を図った「いんとろ」(全戸・地元高校生配布)やホームページのPR活動の徹底し、情報発信力を強化するほか、新型コロナ対策として新たに取り組んだWEBでの市内企業合同説明会を定期的を実施する。 ●中高生が市内企業を具体的に知るプログラムや企業同士の横のつながりを創出し、一丸となって問題解決に取り組む新たな枠組みづくり等を市内企業とともに検討し、連携して取り組む。
6	若い世代の流出抑止に向けた専門学校等の誘致	未来創造課	<ul style="list-style-type: none"> ●将来的な誘致に向けて、協定を締結している大学を中心に、連携事業を実施した。また、市の各種審議会等への委員の派遣等により、専門的知識の習得に効果があった。 ●県立大学新設学部の勝山市内設置に向けて知事へ要望書を提出した。 【R2実績】 ・県立大学新設学部の勝山市内設置に向けて知事要望を実施 ・インターンシップ生の受け入れ(8月、2月) ・福井県立大学からソーシャルワーク実習を受入 	<ul style="list-style-type: none"> ●福井県立大学の第三期中期計画に掲げられている古生物関係の新学部誘致に向けて、県と協議する。
7	国の機関や県等と連携した事業展開	商工観光・ふるさと創生課	<ul style="list-style-type: none"> ●国や県の補助金を活用した事業に多数取り組むことにより、市の財政の圧迫を避けることができることから、活用する事業数は年々増加している。 ●令和2年度においては、県のU・Iターン就職者への奨励金事業や国の地方創生交付金事業、移住支援金事業を活用するなかで、上述の各種事業に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●国、県の補助事業を活用して実施したこれまでの事業を十分精査し、勝山市の魅力発信、地域経済の発展に結びつく補助については、積極的に活用していく。

No	施策名	担当課	内容・実績(令和2年度)	課題と対応策(令和3年度以降)
8	魅力ある定住先としてのジオパークの魅力発信	ジオパークまちづくり課	<p>●令和元年10月の日本ジオパーク再認定審査にて、「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」は再認定を受け、それ以降、勝山市の強みである、地域資源や文化を尊重する市民活動を継続して行っている。昨年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動の縮小や中止せざるを得ないものもあったが、市民活動については感染防止策を徹底してのツアー開催や、HPやSNSでの情報発信は行うことができた。</p> <p>また、小中学生に対してのジオパーク学習では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、実施の変更、中止せざるを得ないものもあったが、主体的な学びの機会を創出し、児童自らが勝山市の魅力の発信を行った。ガイド養成講座は新型コロナウイルス感染症拡大により実施できなかった。</p> <p>【R2実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民による主体的なまちづくり活動への助成研修 15事業 ・市内小中学校等を対象としたジオパーク学習の実施 20回 ・自然体験学習等の実施 参加者数 1,354人 	<p>●既存のジオパーク案内板について改修し、これまで以上に魅力が伝わる内容に刷新し、各所に設置することにより、現場を訪れる方への、積極的なジオパークの魅力発信に取り組む。</p> <p>●教育面では、地域ESD活動推進拠点にも登録されている勝山市の強みを活かし、教育委員会や小中学校と連携を強化し、ESDの観点から、ジオパークの魅力を児童・生徒に伝えるとともに、子供から親世代へのジオパークの魅力の伝達を図る。</p> <p>【R2実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案内板改修2件

③ 重要業績評価指標

No	重要業績評価指標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (目標値)	達成度
1	田舎暮らし体験者数(人) ※H27～R3累計	目標値	—	100	200	300	400	500	700	950	
		実績値	98	198	380	561	685	822	841		
2	市内企業説明会に参加した勝山市の高校生的人数(人)	目標値	—	42	44	46	48	50	50	50	
		実績値	38	38	40	39	38	33	20		
3	UIターンに関して国や県と連携して行った事業数(件) ※H27～R元累計	目標値	—	1	2	3	4	5	14	23	
		実績値	—	2	5	9	12	15	18		

重点戦略2 勝山市の地域資源をさらに磨き、U・Iターンに向けた多様な仕事と需要を生み出すなど、多様なチャレンジが可能な仕組みをつくる

① 重点戦略に係る数値目標(KPI)

No	重点戦略に係る数値目標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (目標値)	達成度
1	観光入込客数(万人)	目標値	—	175	180	186	193	200	215	230	未達成
		実績値	171	203	199.5	217.6	210.7	221.5	128.5		
2	観光消費額(億円)	目標値	—	28	29	30	32	34	44	54	未達成
		実績値	27	27.67	32.5	47.73	47.65	50.68	29.21		

② 重点施策

No	施策名	担当課	内容・実績(令和2年度)	課題と対応策(令和3年度以降)
1	観光まちづくりを進めるDMOの形成	商工観光・ふるさと創生課	<ul style="list-style-type: none"> ●令和2年6月に、勝山市道の駅「恐竜渓谷かつやま」がオープンした。道の駅、花月楼、ジオターミナルとあわせた3拠点を中心に、DMOとしての活動を展開した。 ●勝山市観光まちづくり(株)が、市と連携しながら中部運輸局観光部の公募事業に参画し、アフターコロナに向けて欧米豪向けの体験ツアープランを作成した。 ●道の駅「恐竜渓谷かつやま」「花月楼」「勝山市ジオターミナル」を活かし誘客促進に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ジオターミナルは、令和2年秋期は過去最高売上を記録しており、コロナ禍において、お土産等に消費する金額が高くなっていると推測できる。令和3年度においても恐竜博物館からの誘客を図り、収益増大を図る。 ●道の駅の売り上げが順調に推移していることから、市内生産者による出品数の増加に努め、市全体での観光の産業化を推進していく。
2	勝山市の地域資源を活かした観光・交流拠点の整備	商工観光・ふるさと創生課	<ul style="list-style-type: none"> 【R2実績】花月楼の年間売上 : 5,712千円 【R2実績】ジオターミナルの年間売上:112,660千円 【R2実績】道の駅の年間売上 :131,466千円 	
3	観光における他市町との連携	商工観光・ふるさと創生課	<ul style="list-style-type: none"> ●「越前加賀インバウンド推進機構」を活用して、アジア圏向けにホームページやSNSを活用した情報発信に取り組んだ。 ●北陸新幹線福井開業時を目指して、大野市や永平寺町と連携し、エリア内の周遊促進を図る事業を展開した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●インバウンドについては、勝山市単独よりも、周辺エリアで施策を展開する方が有効と考え、越前加賀エリアのみならず、大野市や永平寺町とも連携しながら、アフターコロナにおける誘客の準備に取り組む。 ●大野市に道の駅が完成したことから、永平寺町の道の駅とともに、シェアサイクルによる回遊などといった周遊施策を展開していく。
4	インバウンド観光の促進	商工観光・ふるさと創生課	<ul style="list-style-type: none"> ●「越前加賀インバウンド推進機構」を中心に、地方創生推進交付金を活用したインバウンド観光推進事業を実施した。ただし、令和2年度については、新型コロナウイルスの影響を鑑み、トップセールスや出向宣伝は行わず、ホームページやSNSによるプロモーションに注力した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「越前加賀インバウンド推進機構」の枠組みは存続し、アフターコロナでのインバウンド誘客を見据え、アジア圏に対し、エリア全体での共同プロモーションを継続する。 ●勝山市観光まちづくり(株)と連携しながら、外国人向け(特に欧米豪)体験等コンテンツの開発・拡充に取り組む。
5	観光の産業化に向けた特産品・土産品開発と新たな勝山ブランドの創造	商工観光・ふるさと創生課 農林政策課	<ul style="list-style-type: none"> ●市内事業者による地域資源を活用した土産物開発、販路拡大事業を支援した。 【R2実績】『恐竜最中商品パッケージ』の開発 ●鮎関連商品として、鮎サンドイッチや鮎カツ丼、鮎おにぎりといった加工品の開発を支援し道の駅で販売した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●観光客等のニーズを把握している観光まちづくり(株)や、商工会議所によるセミナーの開催を予定している。引き続き外部専門家の指導を受け、観光客等のニーズに合う商品開発に向けて支援をしていく。 ●鮎関連の加工品の継続販売と周知を図る。 ●県やJAと連携し、勝山市の既存特産作物を生かした加工品の開発を推進する。

No	施策名	担当課	内容・実績(令和2年度)	課題と対応策(令和3年度以降)
6	農業における収益性と魅力の向上	農林政策課	<ul style="list-style-type: none"> ●エゴマを勝山市の特産品とするため、エゴマの栽培に取り組む生産者の出荷に対して補助金を交付した。(勝山市特産作物生産拡大出荷奨励事業) <ul style="list-style-type: none"> 【R2出荷量】537.0kg(補助対象者数:28件) 【R1出荷量】879.0kg(補助対象者数:34件) 【H30出荷量】1188.9kg(補助対象者数:30件) 【H29出荷量】1449.8kg(補助対象者数:28件) ●道の駅に出荷登録している出荷者に対して出荷額の5%の補助金を交付した(園芸作物等出荷奨励事業) <ul style="list-style-type: none"> 件数:85人 補助金額:976,621円 	<ul style="list-style-type: none"> ●道の駅農林水産物販売所の出荷者及び出品数を増やすことにより販売所の魅力をアップし、販売額の増加を図る。また、地元客の増加を図る。 ●地元農作物を利用した加工品等の開発を支援する。 ●テクノロジーを利用した農業(スマート農業※ドローンやイチゴハウスの見学など)について子供たちが学校で学習することにより農業の魅力向上を図る。(農業は大変というイメージの脱却)
7	金融機関と連携した地元企業の支援	商工観光・ふるさと創生課 農林政策課	<ul style="list-style-type: none"> ●中小企業の経営の安定と振興のため、次の支援を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> 【R2実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業振興対策資金 7件 31,800,000円 ・小規模企業振興対策資金 0件 0円 ・新規開業資金 2件 23,000,000円 ●市の融資を受けた市内の企業者に対して金利負担を軽減するため、利子補給を行った。 <ul style="list-style-type: none"> 【R2実績】 89件 1,909,000円 ●新型コロナウイルス感染症により事業に影響が出た中小企業の事業継続や経営の安定化を図るため事業持続応援給付金を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・福井県新型コロナウイルス感染症対応資金 融資額1/30補助 <ul style="list-style-type: none"> 【R2実績】 152件 69,775,000円 ・福井県経営安定資金(新型コロナウイルス対策分)融資額1/60補助、利子補給(3年間) <ul style="list-style-type: none"> 【R2実績】 補助 21件 9,442,000円 利子補給 26件 3,389,000円 ・持続化給付金給付事業 <ul style="list-style-type: none"> 【R2実績】 304件 15,200,000円 	<ul style="list-style-type: none"> ●引き続き金融機関と連携し、国、県による新型コロナウイルス関連支援策の周知を行うとともに、事業継続・新規開業等アフターコロナを見据えた支援を行う。

No	施策名	担当課	内容・実績(令和2年度)	課題と対応策(令和3年度以降)
8	市民のチャレンジを応援	ジオパークまちづくり課	●勝山市わがまち助成事業に、市内の若者グループや地域で活動する女性グループ等より新たなチャレンジにつながる3件の申請があったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、1件辞退となり、申請件数は減少した。	●単年度限りの事業ではなく、持続可能な取り組みとなるように、申請段階から綿密なヒアリングを行う。 ●SDGsの観点を踏まえた幅広い視点での活動を推進することにより、多角的な角度からの事業申請を促す。 ●広報等で過去の取り組み事例を紹介するなど制度を周知し、気軽に取り組みできる環境作りを図る。

③ 重要業績評価指標

No	重要業績評価指標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (目標値)	達成度
1	勝山市中心市街地への入込客数(万人)	目標値	—	27	27	30	33	40	41	42	未達成
		実績値	27	24.7	22.8	23.5	18.7	23.2	11.5		
2	新たに設置する日本版DMOの数(組織)	目標値	—	—	—	—	—	1	—	—	達成
		実績値	—	—	—	—	—	1	—		
3	勝山市における外国人延べ宿泊者数(人)	目標値	—	1,860	1,890	1,930	1,980	2,050	4,300	6,500	未達成
		実績値	1,840	3,499	2,689	3,721	2,499	2,114	1,409		
4	新たに開発した「かつやま逸品」の数(商品) ※H27~R1累計	目標値	—	13	14	14	15	15	20	26	達成
		実績値	13	16	17	19	23	24	24		
5	鳥獣害による被害面積率(%) ※米、麦、そばの作付面積比	目標値	—	1%以内を維持	1%以内を維持	1%以内を維持	1%以内を維持	1%以内を維持	1%以内を維持	1%以内を維持	達成
		実績値	1.37%	1.59%	1.88%	0.73%	0.51%	0.16%	0.40%		
6	市内中高生および若者によるまちづくり団体への助成件数(団体) ※H27~R1累計	目標値	—	16	23	31	40	50	55	60	未達成
		実績値	10	18	26	31	37	44	46		

重点戦略3 縁結びから子育て、教育まで、充実した環境の中で、勝山を誇れる次の世代を育てる

① 重点戦略に係る数値目標(KPI)

No	重点戦略に係る数値目標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (目標値)	達成度
1	合計特殊出生率	目標値	—	—	—	—	—	—	—	1.65	判断時期未到来
		実績値	1.53	—	—	—	—	—	1.52		

② 重点施策

No	施策名	担当課	内容・実績(令和2年度)	課題と対応策(令和3年度以降)
1	婚活情報発信等の強化	福祉・児童課	<p>●新型コロナウイルス感染症の拡大により、多人数によるイベントはもとより、結婚相談も縮小を余儀なくされた。一方、令和2年11月から開始された県のマッチングシステムはAIによる診断で個別のお見合いが可能であり、このシステムの紹介を広報や公民館だよりに掲載し、登録を呼びかけた。また相談室来室の方にも周知した。</p> <p>【R3.3.31登録者数】 県内全体 642名 勝山市 13名</p>	<p>●マッチングシステムの広報をさらに強化し、登録者数の増加を図る。また、婚活世代の親に向けたセミナーの開催も検討し、成婚に結び付けるためのノウハウの普及に努める。</p>
2	地域行事・活動等を通じた出会いの場の創出	福祉・児童課	<p>●コロナ禍でイベントの開催は軒並み中止となった。一方で出会いの場に来る女性は第一印象で男性を判断する傾向が高いことが予想されることから、男性のファッション講座を開催した。</p> <p>【R2実績】 講師：(株)ドラフト(本社をあわら市に構えるネット通販のAPARALLELメーカー) カメラマン：元禄スタジオ スタイリスト：ヘアエージ(旭町) 参加者：5名</p>	<p>●収束のみえないコロナ禍で、イベント等の開催は県内に限定する一方、予算枠を拡大し、県内でも魅力あるイベントにするため若い世代に訴求するイベント内容に知恵を絞る。</p> <p>●男性の魅力アップにつなげるため、未婚男性のファッション講座を開催する。</p>

No	施策名	担当課	内容・実績(令和2年度)	課題と対応策(令和3年度以降)
3	子育て支援の充実とPRの強化	健康長寿課	<ul style="list-style-type: none"> ●母乳相談、産婦健診、不妊治療費助成に加え、新たに産後ケア事業ショートステイ、新生児聴覚検査、妊産婦医療費無料化等の事業の充実に取り組んだ。 ●感染症予防に配慮しながらすこやかでの育児相談や、助産師や保健師による講座を実施した。 <p>【R2実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母乳相談:実人数20人、延べ人数24人 ・産後2週間健診:11件 1ヶ月健診:27件 ・ショートステイ:0件 ・新生児聴覚検査:113件 ・不妊治療費助成:申請件数27件、助成額:3,181,000円 ・妊産婦医療費助成:申請件数94件、助成額:2,785,229円 ・育児相談:実件数64件、延べ件数167件 ・妊産婦教室:1回 	<ul style="list-style-type: none"> ●安心して妊娠、出産できる環境をつくるため、福井勝山総合病院産婦人科と連携し事業の充実を図ってきた。今後も病院との連携を密にし、産後ケア事業の拡充を検討していく。また、妊娠期からの支援として、妊産婦医療費助成事業を実施し、さらなる充実を図る。
4	子育てしながら働く女性への支援	未来創造課	<ul style="list-style-type: none"> ●男女共同ネットワークと連携し下記の事業に取り組んだ。 <p>【R2実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子で参加できるチャレンジ講座の開催 ・サンプラザにおけるパネル展示 ・ふくい女性活躍支援センターの紹介チラシを市内回覧 ・チャイルドルームを設置した講座の開催 ・男女共同参画ポスターコンクールの実施 ・人権オンライン講演会の実施(勝山市教育委員会と共催) ・ふくい女性財団と連携した子育てしながら働く女性への広報等による支援の周知 	<ul style="list-style-type: none"> ●市が関与する行事等において、子育て世代が参加しやすい日時・内容を検討し、チャイルドルームの設置について呼びかけ、支援を行う。 ●子育て期の女性が働きやすい企業が増えるよう「ふくい女性活躍推進企業」の周知を強化し、女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定を支援する。 ●出産・子育てにより離職した女性の再就職を支援するセミナーについて、PRの強化を図る。
5	地域医療体制の充実・確保	健康長寿課	<ul style="list-style-type: none"> ●かかりつけ医の推進と医療支援 ・福井勝山総合病院医療従事者宿泊支援事業の実施 ・医療資材の配布(消毒液・マスク・防護服) ・勝山市医療・障害・介護施設応援給付金給の交付(医療施設19施設 684人に交付) ・新型コロナウイルス、かかりつけ医の推進に関する講座の実施(オンラインを含め10地区200人参加) ●医療介護人材緊急確保奨励金の交付 <p>【R2実績】</p> <p>医療:継続5件 介護:新規4人、継続12件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症の普及啓発とともにかかりつけ医の必要性を周知する。また、医療機関と連携し新型コロナワクチン接種に取り組む。

No	施策名	担当課	内容・実績(令和2年度)	課題と対応策(令和3年度以降)
6	特色ある教育の推進と情報発信の強化	教育総務課	●勝山市が地域ESD活動推進拠点に登録され、さらに、地域と進める体験推進事業への参加や、勝山市他課と連携し、総合的な学習の時間を中心にESDの考え方を生かした環境教育やふるさと学習を推進できた。さらにNIE教育を取り入れ、地域への発信を行った。児童生徒が発表する場として、ふるさと教育フェスタに参加した学校もある。地域の行事への参加率は、コロナ禍で中止が相次いだため低下していたが、地域について考える調査では、昨年同様に肯定的な回答の割合が高かった。	●勝山市他課、外部機関と連携をし、地域を題材にした学習とSDGsとのつながりを意識した取り組みをさらに推し進めていく。依然として交流に制限がかかると予想されるが、できる範囲で連携を図っていく。 ●市内学校間はもとより、市外、県外との交流については、タブレット端末や遠隔システムを利用し、リモートでの交流ができるよう支援していく。

③ 重要業績評価指標

No	重要業績評価指標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (目標値)	達成度
1	市への結婚相談件数(件) ※H27~R1累計	目標値	—	100	200	300	400	500	750	950	達成
		実績値	88	170	330	508	659	775	816		
2	出生数に対する勝山市出産連携事業を利用した人の割合(%) ※H27~R1累計	目標値	—	42	44	46	48	50	50	50	達成
		実績値	40	35.6	50.3	46.9	48.3	45.7	51.6		
3	勝山市に住み続けたい。または いったん離れてもまた帰ってきた と思っている中高生の率(%)	目標値	—	—	—	—	—	—	—	65%	判断時期未到来
		実績値	53%	—	—	—	—	—	—		

重点戦略4 豊かな地域コミュニティの中で、いつまでも健康で、安全・安心に暮らせるまちを創る

① 重点戦略に係る数値目標(KPI)

No	重点戦略に係る数値目標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (目標値)	達成度
1	勝山市の人口(人)	目標値	—	24,360	23,990	23,640	23,310	23,000	23,000	23,000	未達成
		実績値	24,754	24,359	23,978	23,585	23,186	22,777	22,421		

② 重点施策

No	施策名	担当課	内容・実績(令和2年度)	課題と対応策(令和3年度以降)
1	地域医療体制の充実・確保	健康長寿課	※重点戦略3 事業No5	※重点戦略3 事業No5
2	健康長寿の推進	健康長寿課	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症拡大に伴いお出かけサロンが中止となった。そのため電話や訪問により状態確認や自宅で行える介護予防プリントの配布を行った。また、閉じこもりや筋力低下等がみられる方には介護サービスの利用に繋がった。お出かけサロンの変わりとしてコロナ禍でも実施できる介護予防教室として、新たにいきいきサロンとはつらつ教室を開始した。(R2.10～いきいきサロン、R3.2～はつらつ教室) ●長期自粛によるフレイルを予防するため、市内スーパーやコンビニ、銀行等に介護予防やフレイル予防のチラシや健康カレンダーを設置し普及啓発に取り組んだ。 ●旭毛屋町をモデル地区として、訪問によるフレイルチェックを行い、フレイルへの気づきや予防の取組についての周知を行った。 ●感染症対策を行いながら健康長寿！一番体操教室を地域で実施した。(4地区実施) ●地区サロンでの介護予防教室では、介護予防やフレイル予防の普及啓発や、感染症予防として新型コロナウイルスに関する講座を実施した。(20回) 	<ul style="list-style-type: none"> ●定期的な外出の場、体を動かす場を提供するため、介護予防教室(いきいきサロン、はつらつ教室)を継続する。 ●アンチエイジング講座やフレイルサポーター養成講座、フレイルチェックについては、新型コロナウイルスの感染対策をとりながら実施する方法を検討する。

No	施策名	担当課	内容・実績(令和2年度)	課題と対応策(令和3年度以降)
3	高齢者支援体制の充実	健康長寿課	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症に伴う自粛生活によって高齢者の心身への影響が危惧されるために、市内量販店や金融機関等で、地域包括支援センターの相談窓口を周知し、訪問や相談の個別対応の強化に努めた。 ●地域ケア個別会議(2回)や居宅介護支援事業所代表者会議(2回)、介護サービス事業所等との情報交換会を感染症対策をとって、オンライン会議により開催した。 ●市民や介護支援専門員対象に、新型コロナウイルス感染症に関する正しい知識の普及啓発を行った。また各地域において、コロナ禍における地域活動の進め方についての話し合いを行った。(10地区) ●医療・介護関係者を対象にACPIに関する研修会を開催した。(1回) ●認知症事業として、認知症初期集中支援チーム検討委員会を1回実施した。またチーム員との連絡会も1回実施した。 ●認知症ケアパスを作成し、市HPや広報、市内量販店や金融機関、郵便局などに設置する等、認知症に関する情報や相談窓口の周知を実施した。 ●新たに市内金融機関等6事業所と「地域見守り活動協力に関する協定」を締結し、見守り活動強化に繋げた。 <p>【R2実績】 認知症主訴とする窓口・電話相談対応(90件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●地域包括支援センターの周知を継続し、介護や認知症等に関する相談体制を強化する。 ●感染症の発生状況に応じ、オンラインを活用して各種会議や研修会等を継続して実施できるよう取り組む。
4	利用しやすいバス体系の整備	環境政策課	<ul style="list-style-type: none"> ●「わたしの時刻表」作成サービス、高齢者対象のバスの乗り方教室や高校入学予定者へのバス通学の説明、病院専用時刻表の作成などを通じ、バスの利用促進に取り組んだ。 ●商業施設専用時刻表の作成、妊産婦対象のバス無料チケット発行、運転免許証自主返納事業における無料乗車区域の拡大等を実施し、バスの利用促進を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通計画を策定し市民のニーズの把握と利用実態の検証を行い、より利用しやすいバス路線を構築する。 ●「わたしの時刻表」作成サービス、高齢者対象のバスの乗り方教室や高校入学予定者へのバス通学の説明、病院専用時刻表の作成などを通じ、バス利用促進のPRに取り組む。 ●商業施設専用時刻表の作成、妊産婦対象のバス無料チケット発行、運転免許証自主返納事業における無料乗車区域の拡大等を実施し、引き続きバスの利用促進を図る。
5	市民が楽しめるレジャー施設・店舗等の充実・誘致	商工観光・ふるさと創生課	<ul style="list-style-type: none"> ●外遊びのきっかけとなるよう道の駅親水空間を整備した。また、道の駅隣接地については、いちご狩り体験など、より市内外から親しまれるような施設の誘致に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●道の駅がより市民に親しまれる施設となるよう、道の駅における農林水産物等の委託販売の手数料を勝山市民に対して補助することで販売品目の充実を図るとともに、道の駅と協力しながら出品者の新規開拓を図る。

No	施策名	担当課	内容・実績(令和2年度)	課題と対応策(令和3年度以降)
6	総合的防災体制の構築	監理・防災課	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染拡大の影響により、勝山市総合防災訓練は中止となった。新型コロナウイルス感染症が蔓延する中においても、円滑に避難者を受け入れるためにコロナ禍における避難所開設訓練を避難所開設運営職員、施設管理者を対象に実施し、避難者の受付方法およびスクリーニング方法、防護衣の着脱法、段ボールパーテーションの設置方法、備蓄品(感染症対策用)の確認等を行った。 ●各地区での防災出前講座を実施した。(4回) ●黒原区、保田出村区の2組織が新しく自主防災組織を設立した。(R2年度未現在、112地区中、68組織設立済み) ●緊急メールサービスの登録依頼を各地区出前講座にて行い、登録件数が増加した(R2.3月末3,741件、R3.3月末4,030件)。また、令和元年度に導入した「音声一斉配信サービス」を令和2年度に2回活用し、避難所開設時に高齢者宅に情報発信を行った(R3.3月末280件)。 ●県と連携し、土砂災害警戒区域内および浸水する恐れのある要配慮者施設への避難確保計画の作成に関する講習会を実施した。対象となる施設について、全て計画の作成が完了した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●勝山市総合防災訓練に、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえたメニューを追加して実施する。 ●地区の防災出前講座等において、自主防災組織の役割・重要性を説明し、未設立の地区については設立の呼びかけを継続する。また、自主防災組織連絡協議会の設立を目指す。 ●空き家についての状況把握や対策を検討するため、「区長会」や「空家等対策協議会」、その他関係機関との連携を強める。 ●勝山市ハザードマップの改訂後、地域住民へハザードマップの説明とあわせ、各地区の水害リスクに関する説明会を実施する。 ●土砂災害および浸水する恐れのある要配慮者施設へ避難確保計画に基づいた避難訓練の実施の促進を継続する。
7	雪と共生するまちづくりの推進	都市建設課 ジオパーク・まちづくり課	<ul style="list-style-type: none"> ●勝山雪室ブランド推進会議のアドバイザーの福井大学工学部、と勝山の雪室の温度データを観測してもらう。また仁愛大学人間生活学部には根菜類が学校給食に与える影響についてアドバイスをいただく。 ●7月17日～そば粉がなくなるまで勝山市内のお店8店舗で雪室そばを提供した。 <p>【R2年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪室学習会の開催 2回 ・雪室そばの提供 8店舗参加 ・勝山市雪室ブランド推進会議 2回 	<ul style="list-style-type: none"> ●雪室の魅力を手感でき、勝山市雪室のブランド化に資する雪室商品の開発を組織一丸となって進め、各所での販売を促進する。 ●当組織に強い影響力や営業力、広報力等をもつ人や店舗(企業)を受け入れることにより、勝山雪室ブランド力の強化と資金面での充実を目指し、将来的には自立できる組織を目指す。

③ 重要業績評価指標

No	重要業績評価指標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (目標値)	達成度
1	防災行政無線整備率(%) (音声が届く戸数率)	目標値	—	82%	84%	87%	90%	—	—	—	達成
		実績値	80%	90.70%	94.10%	94.80%	94.80%	—	—	—	
2	市内自主防災組織数(組織)	目標値	—	59	65	72	80	81	82	83	未達成
		実績値	53	55	61	61	63	66	68	—	
3	健康寿命の延伸(歳)	目標値	—	男78.7歳 女83.5歳	男78.7歳 女83.5歳	男78.7歳 女83.5歳	男78.8歳 女83.6歳	男78.8歳 女83.6歳	男78.7歳 女84.0歳	男78.6歳 女84.4歳	一部未達成
		実績値	男78.7歳 女83.5歳	男78.4歳 女83.9歳	男78.46歳 女83.86歳	男78.44歳 女84.38歳	男77.95歳 女84.12歳	男78.5歳 女84.00歳	—	—	